

## 優良経営体事例



調査日	平成28年8月 平成30年9月(更新)
所在地	香川県善通寺市
経営主	島田満沖
主要事業	果樹
主要作目	キウイフルーツ 1.5ha
就農タイプ	継承
法人化	平成10年(就農後22年目)
売上	6,000万円
従業員	常勤 3名(内役員 2名) 臨時雇用8名

## ヒストリーあらすじ

- ・他産業で仕事をしていましたが、父の病気がきっかけで就農。
- ・ミカンの生産過剰による価格暴落で作目転換を模索。
- ・香川県育成キウイフルーツ品種「香緑」の味に感動。
- ・昭和55年から「香緑」の試作。昭和57年から本格的に栽培。
- ・1個千円のキウイフルーツづくり、ブランドの確立。「カルテ農法」考案。
- ・平成7年 拡大した規模に必要な集出荷場、大型冷蔵庫等を整備。
- ・平成10年 有限会社キウイボードコーポレーション設立。
- ・新たな品種「香粹」「讃緑」の導入。
- ・平成15年 販売網を活用して関連法人の設立。
- ・平成25年 県内外からの若手就農・研修の受け皿として、また新品种「キウイツ子」の栽培と販売のため、新たな法人設立。
- ・香川農試で開発された新品种「キウイツ子」栽培・販売。
- ・県内給食へ出荷、小学生の収穫体験等、食育への取組。

エッセンス	
●揺るぎないトップブランド確立への情熱	・手を抜かない ・うそをつかない
●人のつながり	・作るのも人、売るのも人、食べるのも人 ・人は必要な時に必要な人に出会う
●販売計画と生産計画	・生産・流通コスト計算 ・適正な利潤を含めた価格設定



(有)キウイバードコーポレーションのメンバー



(株)さぬき果匠会でモモ、ブドウ、ミカンの販売



1つ1つ丁寧にキウイフルーツをお届けします



小学校5年生に作業体験

# 有限会社キウイバードコーポレーション ヒストリー

就農前	就農期	転換期 (昭和55～64年)	確立期 (平成元～10年)	発展期 (平成10年～30年)	発展・将来構想
<p>●営業の経験が後の農産物販売に役立つ</p> <p>昭和42年、県内飲料メーカーで営業を経験。</p> <p>クレーン免許を取得。</p> <p>入札、見積など裏の世界を知る。</p> <p>●父の病気がきっかけ</p> <p>父が病気で倒れたため、長男でもあったことから、妻と2歳の長女とともに実家に帰り、就農。</p> <p>非農家出身の妻の理解</p>	<p>●父のもとで就農</p> <p>家族でビワとミカンを中心とした果樹経営。</p> <p>●ミカンから中晩柑へ転換</p> <p>全国的なミカンの生産過剰による価格暴落により、中晩柑へ転換。</p> <p>生産物の価格は思うにまかせず、年々家計は苦しくなった。</p> <p>●キウイフルーツ「香緑」との出会い</p> <p>香川県農業試験場で育種されていた「香緑」に出会う。</p> <p>父は「ジャガイモに毛が生えた果物」と反対</p> <p>農協の勉強会で「香緑」を試食し、初めて味わう体験に感動。</p> <p>↓</p> <p>即座に「香緑」を手掛けることを決意。</p>	<p>●昭和55、56年、「香緑」の試作</p> <p>友人から一年目8a、2年目6aの畑を借り、圃地を自分で造成して、植え付け。</p> <p>父は「キウイフルーツ栽培を認めず」</p> <p>●昭和57年、父から農業経営を引き継ぐ</p> <p>ようやく父を納得させ、農業経営を引き継いで、平成3年には全圃地1ha全てがキウイフルーツ「香緑」となる。</p> <p>「自分の人生をかけてキウイフルーツ栽培にこらねる」と父を説得。</p> <p>●昭和62年、1個千円のキウイフルーツづくりを目指す</p> <p>独自の土づくり、疎植栽培、1樹1樹のデータを正確に調べ、これに基づいて管理する「カルテ農法」を考案。糖度18度以上の「香緑」を完成。</p> <p>JAIに「香緑」を品質・味で評価し、価格差を付けるべきと意見したが、受け入れられず。</p>	<p>●1個千円のキウイづくりと販売ルート開拓、ブランドの確立</p> <p>平成元年「キウイバード」の商標登録出願。</p> <p>地道な努力と安定した品質が認められ、平成元年～ 三越高松店 平成4年～ 東京銀座千疋屋と取引開始。</p> <p>平成元年から毎年規模拡大し、法人化を目指す。</p> <p>●加工品への取り組み</p> <p>平成5年長女が後継者となる。</p> <p>規格外の果実の活用のため、市内の加工業者とキウイジャム、「むきみ果キウイ」の製造</p> <p>長女が後継者となったことも、きっかけ</p> <p>●平成7年 集出荷場・事務所、大型冷蔵庫整備</p> <p>規模拡大した樹が成木になり、本格出荷に対応するため。</p> <p>初めて補助事業活用。</p> <p>組織に属さず独自路線を行く経</p> <p>●平成10年農業生産法人「キウイバードコーポレーション」設立</p> <p>高級キウイフルーツ「香緑」が順調に生産・販売できるようになった。</p>	<p>●新たな品種「香粋」「讃緑」の導入</p> <p>「香緑」のない時期の需要に応えるため、県農試で新たに育成された品種にチャレンジ。</p> <p>平成10年「香粋」 平成17年「さぬきゴールド」</p> <p>新しい商品としての「キウイの卵（香粋）」の出荷が始まる。</p> <p>●関連法人の設立</p> <p>平成15年、販売網を活用してモモ、ブドウ、ミカンの仲間と「樹さぬき果匠会」設立。</p> <p>人を信用＝物を信用、運命共同体。名前に恥じない生産指導。</p> <p>平成25年、県内外からの若手就農・研修の受け皿となるため、また、図らずも、農試で開発された新品種「キウいっこ」栽培・販売のため、「樹キウイベイリージャパン」設立。</p> <p>すでに8人独立。来年度1名独立予定。皆、キウイフルーツ専作経営。</p> <p>●食育への取組</p> <p>県内給食へ出荷開始 小学生の袋かけ、収穫</p> <p>●スイーツへの取り組み</p> <p>・ブッセ、ソフトクリームなど</p>	<p>●ガラス張りの経営</p> <p>・営利追及だけでなく、地域の保全・環境保全など地域貢献。 ・果樹栽培で自分でなければできないことで貢献。</p> <p>人生に悔いなし</p> <p>●オンリーワン、トップ品質を継続</p> <p>・果樹振興のため、技術継承。人材育成。 ・海外も含め、販売量の拡大。 ・新たな商品の販売体制の確立</p> <p>●果樹園の流動化（優良樹園地の確保）</p> <p>・果樹振興のため、業界全体として農地の流動化ができるシステムが必要</p> <p>●加工品もオンリーワンの商品を目指す。</p> <p>●「キウいっこ」を世に出す。</p> <p>●5年以内に新社屋建設！</p> <p>・大型冷蔵庫の導入 ・関連会社をひとつに集約</p>

有限会社キウイバードコーポレーション <課題と対応策>

<売上推移>



フェーズ		就農期	転換期 (昭和55~64年)	確立期 (平成元~10年)	成長期 (平成10年~30年)	発展・将来構想
主な出来事		●会社をたたみ、父のもとで就農。●ミカンから中晩柑へ転換	●キウイフルーツ「香緑」導入 ●経営承継●「カルテ農法」考案	●販売ルート、ブランドの確立 ●法人化●長女が後継者	●新たな品種導入●加工品への取組	●ガラス張りの経営 ●オンリーワン、トップ品質の追及
経営課題	ヒト・組織	父との意見対立	父からの経営承継	後継者育成	生産販売体制	法人としての人材育成
	土地・設備	父の経営基盤継承	キウイフルーツ栽培園地の確保	規模拡大 事務所、出荷場、大型冷蔵庫	規模拡大	集出荷施設の再構築
	所得・資金	生産物価格伸びず、生活圧迫	実績が無いため融資を受けることに苦慮。	設備投資資金の確保	所得の安定 制度資金、補助事業の活用	無借金経営
	技術・ノウハウ	新たな品目の探索	最高品質果実生産(カルテ農法)	他にない加工品の商品化	「香粹」の栽培技術確立 新たな品種の導入	大学、県研究機関との連携で新品種開発
	販売・販路	JA系統出荷	販売ルート開拓	販売ルート、ブランドの確立	販売ルートの拡大	ジャパブランドで海外進出
	情報	行政	行政	行政、金融機関	行政、金融機関	行政、金融機関
	地域			地域の活性化(市)	地域の活性化(県全体)	地域の活性化(国全体)
	具体的内容		・キウイフルーツ「香緑」の導入 ・「カルテ農法」の確立 ・きめ細やかな追熟技術のマニュアル化	・商標登録 ・販売ルート確立 ・1個千円の値段設定	・新たな品種の開発 ・栽培技術の確立 ・スイーツへの取り組み	・より簡便に食べられる品種の開発 ・スイーツの商品化
対応策		・葉脈・葉柄、夏芽の有無など約20項目について1樹ごとに観察し、カルテを作成 ・収穫前に各樹をランク付けし、樹ごとに収穫、追熟処理	・スーパーL資金、補助金の活用 ・地域おこし会社「樹までがん」理事として貢献 ・地域一番店舗にしか出荷しない(信用確立)	・キウイの共済制度創設への働きかけ ・市の中小企業振興委員として活動 ・町おこし	・消費者ニーズに呼応 ・新たな品種開発 ・販売の長期化(9月~3月)	
外部環境		※バブル時代。 ※農産物のブランド化が始まる。 ※農業経営基盤強化法で農地流動化促進	※バブル崩壊 ※農産物のブランド化定着。 ※善通寺市農地管理公社設立。	※農業者の高齢化進む。 ※新規就農者が増え始める。 ※農地中間管理機構(H26~)	※TPP締結 ※水を制するものは農業を制す	